

## 2.古賀市がめざす生涯学習

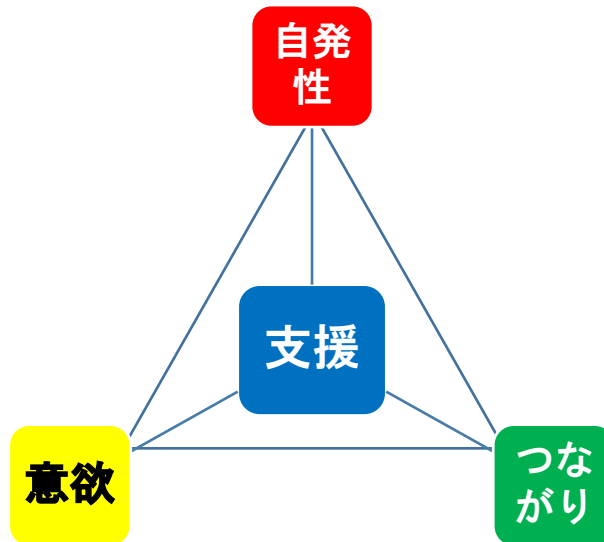
- ・個の学び ひとりひとりが「学びたい」と感じ、学ぶ
- ・つながる 自分が学んだことを、仲間と、周囲の人と共有し、共に学びを深める
- ・自己実現 ひとりで、そしてみんなで学んだことにより、なりたかった自分に近づき、そして新しい目標を立てて次の学びへとステップアップする
- ・支える 学びのサイクルを市が、地域が、社会教育団体が、みんなで支える



古賀市では、ひとりひとりの「個の学び」が、他者と触れ、交流し「つながる」ことで新しい知見を得て学びを深め、「自己実現」に繋げていくというサイクルを、行政・地域・社会教育団体、その他さまざまな団体が支えていくという体制をつくっていくことをめざします。

### 3. 【生涯学習に必要な視点】

古賀市のあるべき生涯学習の姿をもとに、生涯学習政策に必要な視点を考えたところ、以下の方策を柱として組み立てることとしました。



自発性を高める方策 → 「 いつでも始められる生涯学習・社会教育 」

人や団体のつながりを深める方策 → 「 つながり深まる生涯学習・社会教育 」

意欲を高める方策 → 「 自分を高める生涯学習・社会教育 」

学びを支援する方策 → 「 みんなで支える生涯学習・社会教育 」

## 第3章 生涯学習を実現するための目標と方策

### 自発性 「 いつでも始められる生涯学習・社会教育 」

- ①学びのニーズの把握と分析
- ②リーパスカレッジを中心にした学びのきっかけづくり
- ③誰もが学べる環境づくり

### つながり 「 つながり深まる生涯学習・社会教育 」

- ①さまざまな主体による連携・共働の推進
- ②「市民が社会を創る」市民活動の推進
- ③社会教育委員を通じた学びの交流

### 意欲 「 自分を高める生涯学習・社会教育 」

- ①リカレント（学び直し）、リスキニング（新しいスキルの獲得）推進
- ②生涯学習社会の実現に向けた計画の普及・啓発
- ③自分の学びを発信する場の提供や支援

### 支援 「 みんなで支える生涯学習・社会教育 」

- ①生涯学習・社会教育の振興を支える人材の育成及び充実
- ②地域公民館との連携
- ③生涯学習センターの機能拡充
- ④総合的な学習情報の収集及び発信

## 「いつでも始められる生涯学習・社会教育」

生活の多様化が進む社会においては、学びにも新しい手法が求められています。時間を、場所を、経験を問わない手軽なところから開始し、自身のライフスタイルに合った学びを続けていくための場を提供し、生涯学習・社会教育の充実を図ります。

### ①学びのニーズの把握と分析

時代により学びに求められる状況は変わります。

令和4年10月には市民1800人、200事業所に対し生涯学習に関するアンケートを行いました。今回の計画は、このアンケートを基に作成していますが、今後、5年周期で同様のアンケートを行い、市民の生活に根ざした学びのニーズの把握、及び分析による、より身近な学びの提供をめざします。

### ②リーパスカレッジを中心とした学びのきっかけづくり

新しく学びたいが、一方で何をすればいいかわからない人も多いのが現状です。そのため、市が主催する市民講座「リーパスカレッジ」でさまざまな学びの「はじめの一步」「新たな一步」につなげていきます。

また、古賀市だけでなく、国や福岡県が発信する学びの情報についても市民に届けることで、更なる学びを支援します。

### ③誰もが学べる環境づくり

仕事や家庭が忙しく時間を確保するのが難しい人、学びの場にやってくるのが困難な人、障がいを持つ人や海外で生まれ育った人、人の数だけ生活があります。そうした学びに対し困難を持つ人へも学習の機会が設けられるよう、場所や時間を選ばない方法での学びの提案や支援者の紹介などを行います。

## 「 つながり深まる生涯学習・社会教育 」

生涯学習・社会教育活動を続けていく上で他者との交わりは必要不可欠です。個人で活動している人は、同じ学びを行う人と接することで新たな学びを得ることができます。団体として活動している人は、別の団体の活動を知ることで、団体の運営や新たな方向性を学ぶことができます。こうした交流を積極的に作っていくことで、相互作用をもたらしていきます。

### ①さまざまな主体による連携・共働の推進

生涯学習・社会教育の主体はさまざまで、行政が主導するものもあれば、市民や地域の間から自然と発生することも、個人で学ぶことも、同好の士が集まり大きな団体となることもあります。こうしたさまざまな主体で行われる活動を把握し、必要なマッチングを行ったり、一堂に集まる機会を作ることで、団体や活動を相互に知り、つながりを深める促進を行います。

### ②「市民が社会を創る」市民活動の推進

市民活動とは、営利を目的とせず、公共の利益に役立つことを目的とした市民による自発的な活動全般を指します。古賀市でも、保健福祉、環境、文化・スポーツ振興、国際協力、まちおこしなど様々な分野で活動を行い、地域や多くの市民に貢献しています。

こうした市民活動を古賀市が応援することで、より多くの市民の学びと交流を増進していくと考えられ、推進していきます。

### ③社会教育委員の活動を通じた学びの交流

古賀市社会教育委員は社会教育に関し教育委員会に助言等を行うための機関で、社会教育の見識者や学校教育関係者などで構成されています。この生涯学習基本計画も社会教育委員の助言・提案をもとに作成しております。

社会教育や学校教育の現場に知識・経験のある社会教育委員の働きかけにより現状を正しく知ることができ、生涯学習・社会教育への理解が深まります。特に、生涯学習笑顔のつどいについては、社会教育委員の自主事業であり、社会教育の現場での問題を先進団体の紹介・解説により多くの市民に共有するものであるため、例年高い評価を得ています。今後も社会教育委員と共に、生涯学習を推進していきます。

## 「 自分を高める生涯学習・社会教育 」

人は、地域や社会と交流することによって、新たな学びが生まれ、充足感を得ます。そして交流の中で「こうなりたい」という理想の自分を見つけ、理想に向かって更に学びを深めていくことができます。手軽に始めた学びを、生活の中に根付かせ、高い目標を持ち、めざす場所へと変えていく支援を行っていきます。

また、事業所も学びたい社会人を積極的に応援する必要があるため、その場としてリーパスプラザこがを利用してもらえるよう支援を行っていきます。

### ①リカレント（学び直し）、リスキニング（新しいスキルの獲得）推進

現代では情報は日々更新されており、仕事のために、趣味のために、または生活のために、学び直しの重要性が増しています。そこで古賀市では、こうした市民の学びを応援していきたいと思えます。市内事業所のスキルアップや研修の利用を促進したり学び直しを推進する事業を行うほか、個人でも新たに学びなおしたいと考える方へのマッチングや情報提供を行います。

### ②生涯学習社会の実現に向けた計画の普及・啓発

本計画は 2024 年～2033 年の 10 年間の生涯学習・社会教育の指針となる計画です。本計画を古賀市全体に普及・啓発していくと共に、本計画を基礎としたさまざまな事業を行い、本市のめざす生涯学習・社会教育を達成していきます。

### ③自分の学びの成果を共有・発信する場の提供や支援

学びにおいて発表の場とは、これまでの成果を確認し、他者に知ってもらうためによりよい状態に昇華する、たいせつな機会です。こうした発表の場を学習活動へのモチベーションとすべく、イベントの周知、内容の充実に努めていきます。

## 「 みんなで支える生涯学習・社会教育 」

学び続けていくためには、多大な労力を要します。自身の生活環境の変化や、仲間や友人・家族の状況、活動の場の老朽化など、様々な活動への困難を解消し、市民のよりよい学びの活動を支援します。

### ①生涯学習・社会教育の振興を支える人材の育成及び充実

人口減少・少子高齢化社会となり、社会教育団体でも新規加入者が少なく、組織が高齢化していき、後継者不足に悩まされていることが少なくありません。そこで、指導者のための研修会など人材育成の支援を行っていき、長期継続できる組織づくりをめざしていきます。

### ②地域公民館をはじめとした地域との連携

地域公民館は地域の拠点であり、会議や集会、お祭りなどの行事の会場、そして子どもからお年寄りまで、人々の憩いの場となっています。古賀市には 46 の自治会ごとに分館があり、地域ごとに特色を活かした公民館活動が行われています。こうした地域公民館の特色ある活動や地域づくりを関係各所と連携し支援していくと共に、公民館間の交流を積極的に推進していきます。

また、公民館活動の中に新たな学びを導入してもらうため、リーパスカレッジの出前講座（アウトリーチ事業）から講師の紹介など、連携や支援を図っていきます。

### ③生涯学習施設の有効活用と発展

市内には、リーパスプラザこが（交流館・中央公民館・歴史資料館・図書館）や児童センターなどの社会教育施設や、クロスパル古賀をはじめとした社会体育施設など、多くの生涯学習施設があります。こうした施設がより身近になるよう、令和 4 年 10 月からは予約システムをリニューアルし、リーパスプラザこが及び社会体育施設についてはインターネットによる予約及びクレジットカード決済に対応しました。今後も多くの市民に利用いただくため、利便性の向上を図っていきます。

また、古賀北中学校では、令和 5 年度より、空き教室を地域開放室として市民に開放しました。学校のグラウンドや体育館同様、新しい市民の学びの場として定着するよう周知していきます。

### ④生涯学習センターの機能拡充

リーパスプラザこがは平成 28 年にオープンし、新たな学びの場として交流館の貸館がスタートしました。以降、多くの市民にご利用いただいておりますが、一方でまだ知らない、行った事がないという人も相当数います。そこで、リーパスプラザこがでどんなことが行われているのか、どんなことができるのか、市民に分かりやすく発信していきます。

また、中央公民館大ホールを市民ホール化することで、より本格的な文化・芸術活動を市民の身近に届けるなど、更に利便性のよい施設となるよう取り組みます。